

紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況

(2016 年 7 ~ 8 月)



防災科学技術研究所

- 7 月 25 日 ~ 8 月 5 日頃に、紀伊半島北部から東海地方において活発な微動活動。
- 8 月 12 ~ 15 日頃に、紀伊半島南部においてやや活発な微動活動。
- 8 月 19 ~ 23 日頃に、紀伊半島北部においてやや活発な微動活動。

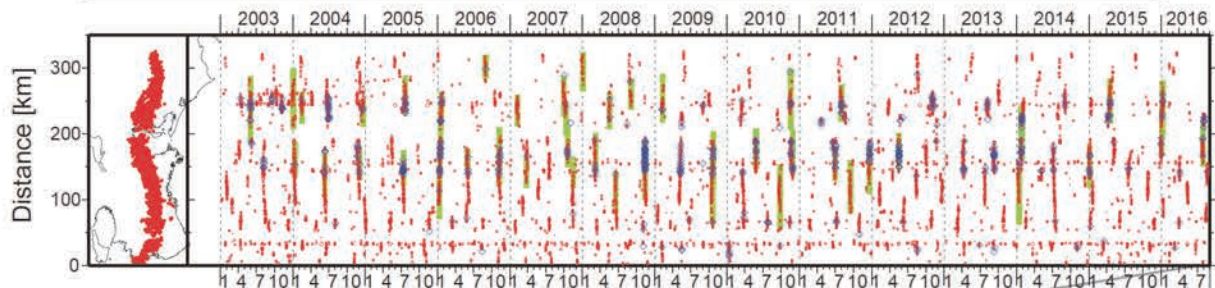


図 1. 紀伊半島・東海地域における 2003 年 1 月 ~ 2016 年 8 月 26 日までの深部低周波微動の時空間分布 (上図)。赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって 1 時間毎に自動処理された微動分布の重心である。青菱形は周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である。黄緑色の太線はこれまでに検出された短期的スローリップイベント (SSE) を示す。下図は 2016 年 7 ~ 8 月の拡大図である。7 月 25 日 ~ 8 月 5 日頃に三重県北部から愛知県西部において活発な微動活動がみられた。この活動は三重県北部で開始し、7 月 30 日頃まで南方向への活動域の移動がみられた。7 月 31 日頃からは、伊勢湾を挟んだ愛知県西部において活動が開始し、8 月 5 日頃まで継続した。この活動に伴い、傾斜変動から短期的 SSE の断層モデルも推定されている。8 月 12 ~ 15 日頃には奈良県南部において、やや活発な活動が発生し、南北方向への活動域の拡大がみられた。また、8 月 19 ~ 23 日頃には三重県中部においてやや活発な微動活動が発生し、北方向への活動域の移動がみられた。7 月 30 ~ 31 日頃には和歌山県中部において、ごく小規模な活動がみられた。

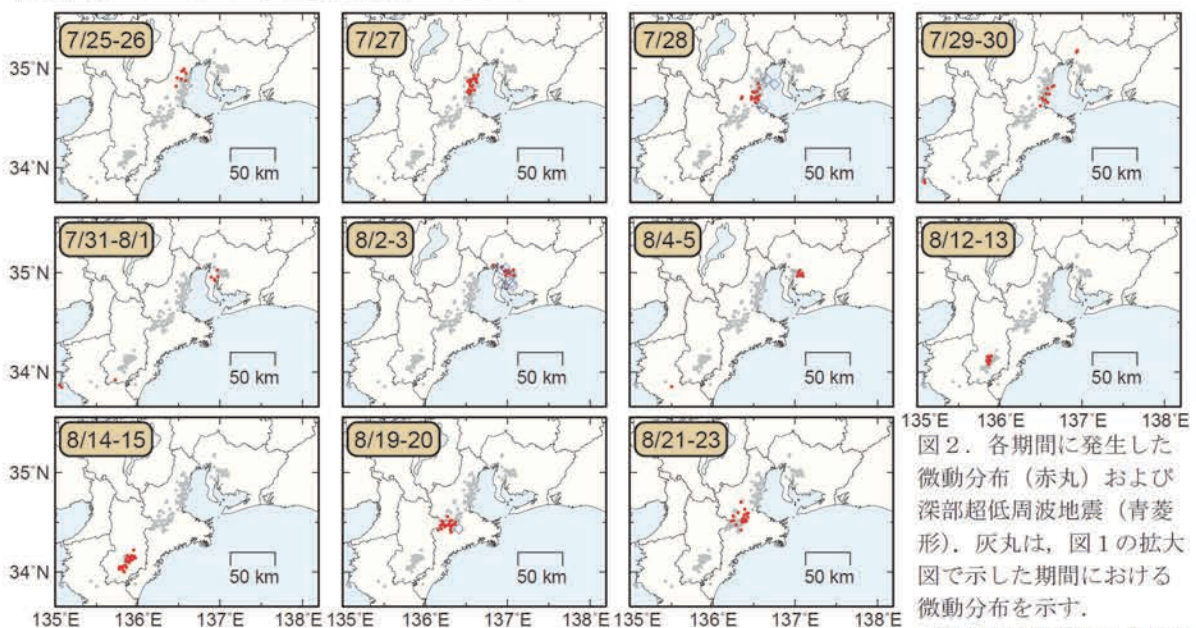
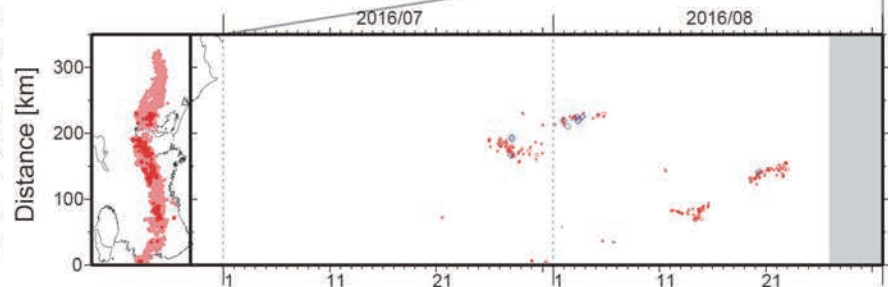


図 2. 各期間に発生した微動分布 (赤丸) および深部超低周波地震 (青菱形)。灰丸は、図 1 の拡大図で示した期間における微動分布を示す。

防災科学技術研究所資料

図 5 紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況